医薬品

1．評価対象企業（22 社）

エムスリー、協和キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、住友ファーマ、 塩野義製薬、日本新薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、参天製薬、ツムラ、テルモ、JCR ファーマ、第一三共、大塚ホールディングス、サワイグループホールディングス、富士フィルムホールディングス（新規）、日本光電工業、シスメックス、オリンパス、朝日インテック

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	7
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	15
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 37 名（所属先 25 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、新規に企業を加えたほか、**経営陣の IR 姿勢等**および **ESG 関連**を中心に項目数・内容、配点の見直しを行ったため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.8 点（昨年度 73.1 点）、総合評価点の標準偏差は 6.6 点（昨年度同点）であった。

②　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 75%（昨年度同率）、**説明会等**が 72%（昨年度 75%）、**フェア･ディスクロージャー**が 81%（昨年度 82%）、**ESG 関連**が 70%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が 73%（昨年度 69%）となった。

③　評価項目について見ると、全 13 項目のうち次の**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目(a)および**フェア･ディスクロージャー**の中の 2 項目(b)・(c)の平均得点率が、いずれも 80%以上となり、高水準であった。

(a)「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していますか」（平均得点率 81%〔新規項目〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 3 社・70%台 5 社・80%台 12 社・90%台 2 社）

(b)「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合が悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 81%〔昨年度 85%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 7 社・80%台 13 社）

(c)「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 77%〕）（得点率：70%台 6 社・80%台 11 社・90%台 5 社）

④ 一方、**ESG 関連**の中の社外取締役に関する項目(a)は、昨年度に続き 60%台にとどまった。(a)については、投資家等と社外取締役との対話の重要性が増していることを踏まえて、今後の積極的な取組みを期待したい。

(a)「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率 67%〔昨年度 65%〕）（得点率：40%台 1 社・50%台 3 社・60%台 10 社・70%台 7 社・80%台 1 社）

(2) 上位３企業の評価概要

第 1 位 アステラス製薬 （ディスクロージャー優良企業〔8 回目〕、
総合評価点 84.8 点〔昨年度比＋6.0 点〕、昨年度同得点第 4 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉89%）、**フェア・ディスクロージャー**（90%）、**ESG 関連**（84%）、**自主的情報開示**（87%）が第 1 位、**説明会等**が同得点第 5 位（78%）となった。昨年度に比べて、**説明会等**を除く 4 項目全てにおいて得点率が大きく改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」および「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、CEO・CFO・IR 部門が連携して中期経営計画の策定・発表において積極的に投資家との対話や情報発信を行い、発表後も高頻度で詳細な説明を実施しているほか、経営トップによる 1on1 ミーティングや、CFO による分かりやすいキャピタルアロケーションの説明、新経営計画の分かりやすいフレームワークを評価する声が寄せられた。なお、中長期構想のさらなる説明やリスク認識に関する開示の拡充を望む声もあった。「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、中期経営計画の策定・発表に向けて投資家への事前ヒアリングを徹底的に実施し、その知見を経営に活かしている点や、新経営計画において明確な増配方針を示した点を評価する声があった。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」も最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門に十分な情報が集約されるとともに権限も付与されており、質の高いメンバーによる迅速な対応や、研究開発・財務担当を含めた役割分担が図られるなど、充実した体制を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会における開示」が第 4 位、「説明資料等における開示」が同得点第 5 位となった。これらに関連して、説明資料は全般的に読みやすく、説明も丁寧で分かりやすいほか、開示内容についても必要十分であると評価する声が寄せられた。なお、製品別の会社計画開示の大幅な縮小はディスクロージャーとしてはマイナスという声が多かった。また、開発パイプラインのポテンシャルに関するより詳細な説明を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されること」が最も高い評価となったほか、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合の悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、会社にとって都合の悪い情報についても適切に議論・説明する姿勢を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、全 4 項目において最も高い評価となった。これらに関連して、新経営計画については、フレームワークが分かりやすく、よく作り込まれている点や、全体として内容を理解しやすい点を評価する声が寄せられた。なお、中期経営計画のさらに詳細な情報について、説明を望む声もあった。

⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は、最も高い評価となり、昨年度（第 8 位）に比べて得点率が大きく改善した。これ

に関連して、中期経営計画説明会に加え、R&D 説明会やサステナビリティミーティングなど、注目分野に関するイベントや情報発信を戦略的かつ適切なタイミングで継続的に実施している点を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　朝日インテック　（総合評価点 80.4 点〔昨年度比＋1.6 点〕、昨年度同得点第 4 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（83%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（84%）、**自主的情報開示**が同得点第 3 位（83%）、**ESG 関連**が同得点第 5 位（74%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 7 位（84%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 2 位となった。これに関連して、IR 部門におけるフェア・ディスクロージャー・ルールを遵守した情報開示や、日本語・英語双方でのコミュニケーションが改善している点を評価する声が寄せられた。なお、IR 組織の体制強化を望む声もあった。また、「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」が同得点第 2 位となった。これに関連して、経営陣が株価を意識した IR 活動に積極的に取り組み、IR 活動の活発化を進めている点を評価する声が寄せられた。また、競争上の理由から開示が難しい開発製品の情報についても、株価評価における重要性を認識し、可能な範囲で開示に努めている姿勢を評価する声があった。「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」は第 3 位となった。これに関連して、経営陣が IR 活動に積極的に関与し、自ら経営戦略や資本政策について説明しているほか、マージン改善に向けた明確なメッセージを継続的に発信している点を評価する声があった。また、経営陣が詳細な数値まで把握したうえで IR 資料を用いて丁寧な説明を行い、定期的に投資家との 1on1 ミーティングを実施していることや、戦略の明確さと分かりやすい説明を評価する声があった。「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」は同得点第 4 位となった。これに関連して、CEO・CFO を中心とした積極的なコミュニケーションや、明確な説明、タイムリーな IR イベントの実施を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会における開示」および「説明資料等における開示」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、説明会資料は年々充実しており、細かな数値分析に加えてその背景や業界環境についても丁寧に説明しているほか、日本語・英語双方でのコミュニケーションの改善や、一過性要因、四半期計画と実績との差異に関する開示の充実を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていること」が同得点第 6 位（昨年度第 2 位）、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合が悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」は同得点第 8 位（昨年度同得点第 6 位）に、共に昨年度に比べて順位を下げた。これらに関連して、決算説明会における投影資料と開示資料の内容の整合性向上や、競合状況に関するより詳細な説明を望む声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が第 2 位となった。これに関連して、中期経営計画については、具体的な内容に加え、中長期目標が明確に示されている点や、事業環境の変化や実績を踏まえた適切なアップデートが予定されている点を評価する声が寄せられた。また、「財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していること」は第 4 位に、「非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていること」は同得点第 7 位に、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」は第 13 位となった。

⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は同得点第 3 位となり、昨年度（第 6 位）に比べて得点率が大きく改善した。これに関連して、事業や成長戦略に関する説明が充実しており、事業見学会や工場見学会を通じて現場や製品への理解を深める機会を継続的に提供している点を評価する声があった。特に、大阪 R&D センターやタイ工場での見学会は有益であり、業績ドライバーである生産性改善に関するタイムリーな情報発信や、明確な戦略説明を評価する声が寄せられた。また、現場見学会の継続的な開催を望む声もあった。

第３位　中外製薬　（総合評価点 79.8 点〔昨年度比－3.7 点〕、昨年度第１位）

① 同社は、**ESG 関連**（78%）が第 3 位、**説明会等**（78%）、**自主的情報開示**（83%）が同得点第 3 位、**経営陣の IR 姿勢等が第 4 位**（81%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 5 位（86%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**および**自主的情報開示**の得点率が大きく下がった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」が第 2 位となった。これに関連して、経営陣は IR 活動に積極的に関与しており、トップマネジメントの高い IR 意識や良好な情報発信に加え、CFO へのアクセス機会の多さや四半期決算時の対応、豊富な IR イベントを評価する声が寄せられた。なお、IR 活動の組織的な体制強化を望む声があった。また、成長戦略前半 5 年間の総括について、より十分な説明を望む声もあった。「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」は同得点第 6 位となった。これに関連して、経営戦略や成長戦略については、2030 年以降を見据えた明確な戦略や継続的なアップデート、自社創製品の前臨床段階に関する説明に加え、説明会で明確なメッセージを発信している点を評価する声が寄せられた。なお、CEO との対話機会の拡充を望む声もあった。「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」は同得点第 9 位となった。これに関連して、新製品に関する説明会などを通じた積極的な情報発信を評価する声が寄せられた。また、IR チームとの対話を通じて投資家の意見が経営陣に伝達されているとの声があった。なお、臨床試験の進捗に関するより積極的な情報発信や、定性的な説明に加えた定量的な開示の充実を望む声があった。特に、自社開発品の一括開発中止や中分子創薬の進捗状況に関するより詳細な説明を望む声があった。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」は同得点第 3 位となった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が同得点第 2 位、「説明会における開示」が同得点第 5 位となった。これらに関連して、説明会や質疑応答、補足資料が充実しており、説明が分かりやすい点に加え、ロシュからのロイヤルティ収入の開示を評価する声が寄せられた。一方で、ロイヤルティ収入の個別内訳やロイヤルティ率などに関する情報開示の充実を望む声もあった。

④ **フェア･ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合の悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が同得点第 1 位に、「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていること」は同得点第 9 位となった。これらに関連して、ロイヤルティの経済条件について、より具体的な情報開示を望む声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていること」が同得点第 2 位、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」および「財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していること」が第 3 位に、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が同得点第 7 位となった。これらに関連して、中長期ビジョン「TOP I 2030」に沿った定性的な進捗報告が適宜行われている点を評価する声が寄せられた。なお、定量的な目標の設定を望む声もあった。

⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は同得点第 3 位となった。これに関連して、R&D ミーティングや新製品説明会、学会発表に関する説明会に加え、サステナビリティ説明会など、多様なイベントや情報発信を継続的に実施している点を評価する声が寄せられた。なお、研究開発テーマに関する情報発信のさらなる充実を望む声もあった。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（医薬品）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 25点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 7点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 33点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 15点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4503　アステラス製薬	84.8	22.2	1	15.5	5	6.3	1	27.7	1	13.1	1	4
2	7747　朝日インテック	80.4	21.1	3	16.5	1	5.9	7	24.5	5	12.4	3	4
3	4519　中外製薬	79.8	20.2	4	15.6	3	6.0	5	25.6	3	12.4	3	1
4	4901　富士フイルムホールディングス	79.7	20.0	5	15.1	7	6.1	3	26.0	2	12.5	2	－
5	4507　塩野義製薬	77.8	21.2	2	15.7	2	5.7	10	25.0	4	10.2	15	2
6	4543　テルモ	77.4	19.9	6	14.8	11	6.2	2	24.4	7	12.1	7	12
7	4578　大塚ホールディングス	76.6	19.8	8	15.5	5	6.1	3	23.0	10	12.2	6	8
8	4536　参天製薬	75.6	19.9	6	15.6	3	5.5	14	23.5	9	11.1	10	14
9	4528　小野薬品工業	75.3	19.4	9	14.9	9	5.9	7	22.7	12	12.4	3	13
10	6869　シスメックス	73.6	18.8	12	13.7	12	5.5	14	24.5	5	11.1	10	6
11	4502　武田薬品工業	73.4	19.0	10	14.9	9	5.8	9	22.2	14	11.5	8	7
12	4506　住友ファーマ	73.1	18.9	11	15.1	7	5.4	16	22.6	13	11.1	10	16
13	4523　エーザイ	72.4	17.9	16	13.6	15	5.6	12	24.4	7	10.9	13	9
14	6849　日本光電工業	71.2	18.4	13	13.3	18	6.0	5	22.8	11	10.7	14	11
15	4887　サワイグループホールディングス	68.9	18.2	15	13.6	15	5.1	20	22.1	15	9.9	16	9
16	4540　ツムラ	67.8	17.6	17	13.7	12	5.3	18	21.8	16	9.4	18	19
17	7733　オリンパス	66.8	18.4	13	12.7	20	5.2	19	21.8	16	8.7	20	18
18	4151　協和キリン	66.5	16.8	19	13.7	12	5.6	12	21.2	19	9.2	19	15
19	4568　第一三共	65.3	15.0	22	12.6	21	4.8	22	21.7	18	11.2	9	3
20	4516　日本新薬	63.5	16.0	21	13.1	19	5.1	20	19.8	20	9.5	17	17
21	4552　JCRファーマ	61.7	17.4	18	13.4	17	5.4	16	16.8	22	8.7	20	20
22	2413　エムスリー	60.3	16.6	20	11.9	22	5.7	10	18.9	21	7.2	22	22
	評価対象企業評価平均点	72.84	18.84		14.38		5.67		23.03		10.92		

2026年度の具体的評価項目および配点（医薬品）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が、IR対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR活動に注力していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
②経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**8**
③経営陣は、株価を意識し、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。	**7**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明会における開示	
・説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	**10**
(2)説明資料等における開示	
・企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	**10**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	
3．フェア・ディスクロージャー（7点）	**配点**
①経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合が悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	**5**
②KAMで指摘された重要リスク情報が適切に開示されていますか。	**2**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	
4．ESGに関連する情報の開示（33点）	**配点**
①社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	**10**
②中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	**10**
③財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していますか。	**10**
④非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていますか。	**3**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（15点）	**配点**
・注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それは有益ですか。［過去1年間を目安に評価］	**15**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	

医薬品専門部会委員

部　会　長	山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
部会長代理	水野　　要	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	関　　篤史	UBS AG
	田中　　洋	みずほ証券
	鳥居　　彩	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	松原　弘幸	野村證券
	若尾　正示	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

評価実施アナリスト（37 名）

有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券
石田　優理子	みずほ証券
上村　悠	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大野　剛	丸三証券
岡崎　優	野村證券
加藤　杏奈	大和証券
鎌田　聡	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券
曲　　睿	大和証券
久保田　悟	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
久保山　浩之	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
高口　伸一	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
古西　正幸	第一生命保険
小林　守伸	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
齋藤　奈央子	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
芝野　正紘	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
関　篤史	UBS AG
高橋　豊	極東証券経済研究所
田中　洋	みずほ証券
鳥居　彩	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
中名生　正弘	ｼﾞｪﾌﾘｰｽﾞ証券会社
根本　隼	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
畑澤　巧	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
久田　有貴	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
藤原　重良	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
前田　晃太	野村證券
真下　弘司	QUICK
松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
松原　弘幸	野村證券
水野　要	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
森　貴宏	野村證券
八並　純子	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
山﨑　みえ	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
横山　雄一	三菱 UFJ 信託銀行
吉田　正夫	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ
若尾　正示	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。